



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：中道政党 カディマの党首が交代

主席研究員 中島 勇

2012年3月27日、イスラエルの中道政党カディマの党首選挙が行われ、リブニ党首が敗れ、モファズ元参謀総長が、新党首に選出された。得票率は、モファズが61.7%（2万3987票）、リブニが37.23%（1万4516票）。両者は、2008年9月の党首選挙でも争い、この時は僅差でリブニが勝利していた。今回、大差でモファズが勝利した背景には、リブニ前党首が、野党としての存在感を出せなかったことがあると報道されている。

シャウール・モファズ新党首は、カリスマ性がなく、政治家としてあまり特徴はないといわれているが、本人は勝利後に、昨年夏の物価高をめぐるデモを視野に社会的公正を求めていくと述べている。他方、カディマの党首が変わったことで、労働党（左派）は、カディマ支持が低迷し、自分たちが野党の軸になれると見ているようだ。

最近の政党の支持率の世論調査では、各政党の支持率が安定していない。右派リクードは30議席前後で推移しているが、カディマは20議席後半から10議席前後と変化の幅が大きい。内政が硬直化しつつあるイスラエルでは、右派の支持率は比較的安定している一方で、中道・左派政党の支持者らの間では、支持する政党の移り変わりが激しい傾向がある。中道・左派政党は、まず足場を固めないと現在の右派政権に対抗できないだろう。

シャウール・モファズは、1948年生まれで、イランから9歳の時移住し、エイラートで育っている。1966年軍に入隊、落下傘部隊や偵察部隊に勤務し、98年7月から2002年まで参謀総長（第16代）を歴任した。退役後、政界に入り、リクード党员として、国防相を務めた。2005年12月にリクード離党し、カディマ党に入党していた。